

長野県地域医療再生計画の概要と成果

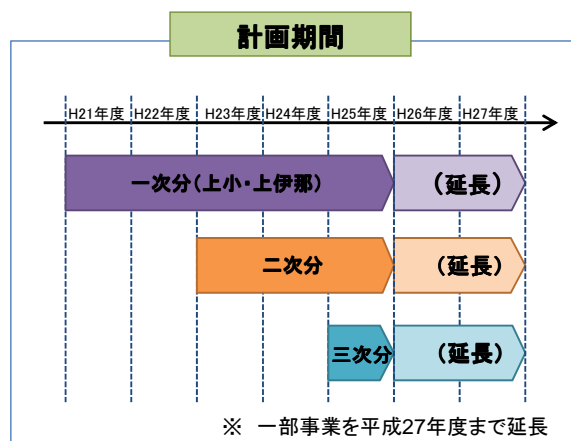
医療推進課

1

1 長野県地域医療再生計画の概要と成果

- 地域医療の課題を解決するために都道府県が医療提供体制の整備等に係る事業計画(地域医療再生計画)を策定。
- 都道府県は、計画を遂行するために国から必要な原資(地域医療再生臨時特例交付金)の交付を受け、地域医療再生基金を造成。
- 本県では、これまでに3度にわたり計画を策定し、被災4県と北海道を除き、全国で最高額の交付を受けている。
- 基金事業の実施により、医療提供体制の強化に大きな成果をあげている。

区分	計画の目的	基金 (運用益除く)
一次分	地域の医師確保、救急医療の確保など、二次医療圏の医療提供体制の課題を解決するための施策についての計画	上小医療圏 25億円 上伊那医療圏 25億円
二次分	県単位(三次医療圏)の医療提供体制の課題を解決するための施策についての計画	86億233万7千円 (被災3県と北海道を除き、全国最高額)
三次分	地域医療再生計画に基づく事業を遂行していく中で、計画策定時(平成21年度)以降に生じた状況変化に対応するための計画	13.5億円 (被災4県を除き、全国最高額)
計		149.5億円 (被災4県と北海道を除き、全国最高額)



総事業費/基金額

845.7億円 / 149.5億円 (+運用益0.9億円)

2

2-① 長野県地域医療再生計画(一次分)の概要

計画期間

平成21年度から平成25年度まで(5年間)(一部は平成27年度まで延長)

総事業費/基金額

125.6億円/50億円(+運用益0.5億円)

上小医療圏

目標

救急医療と周産期医療の再構築を核とした上小医療圏の再生

主な実施事業

【救急医療体制の強化】

- 小児・成人初期救急センターの整備、二次救急医療機関等の整備

【周産期医療体制の強化】

- 上田市立産婦人科病院の移転新築、東御市立助産所の建設

【医療従事者の確保】

- 信州大学との連携による信州上田医療センター医師確保

【地域医療連携の強化】

- 診療情報を有効活用するための地域医療連携ネットワークシステムの構築

上伊那医療圏

目標

公立3病院における急性期・回復期・維持期の機能分担と連携を軸とした圏域全体としての医療提供体制の整備

主な実施事業

【公立3病院の機能分化・連携】

- 伊那中央病院救命救急センター新築・機器整備
- 昭和伊南総合病院の医療機器整備及び地域医療支援リハビリテーションセンター整備
- 辰野総合病院移転新築

【医療従事者の確保・養成】

- 信州大学との連携による伊那中央病院等の医師確保
- 伊那中央病院研修センターの整備



全県事業

主な実施事業

【医療従事者の確保・養成】

- 医学生修学資金貸与
- 研修病院合同説明会参加
- 病院の後期研修医及び指導医の確保・養成及び研修環境の整備
- 長野県看護大学認定看護師養成課程設置

3

2-② 長野県地域医療再生計画(一次分)の成果

上小医療圏

【救急医療体制の強化】

- これまで遠い病院へ搬送していた重症患者について上小地域内の病院での受入が可能に

圏域外への搬送件数割合の抑制
H21: 18.7% → H24: 15.0%(△3.7)

【周産期医療体制の強化】

- 上小地域内の分娩受入体制を強化

地域周産期母子医療センターにおけるハイリスク分娩取扱件数
H22: 0件/月 → H26: 17件/月

【医療従事者の確保】

- 信州上田医療センターの医師の確保
- リニアック(放射線治療装置)の整備

信州上田医療センターにおける医師確保
常勤医数 H22: 36人 → H25: 50人
手術件数 H22: 1,349件 → H25: 1,641件

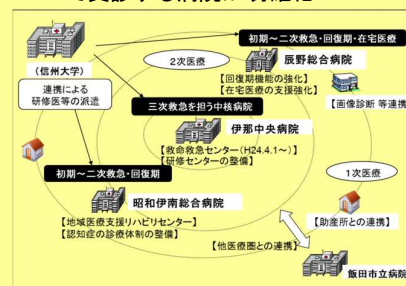


上田市立産婦人科病院の移転新築 信州上田医療センターリニアック整備

上伊那医療圏

【公立3病院の機能分化・連携】

- 公立病院が役割分担を行うことにより、患者の病状に応じて受診する病院が明確化



上伊那医療圏の医療機能の分化と連携体制図

上伊那医療圏の救命救急センターにおける救急搬送受入人数
H20: 1,168人 (昭和伊南) → H24: 3,176人 (伊那中央)

昭和伊南総合病院におけるリハビリテーション患者入院数
H21: 20,438件 → H25: 59,289件 (+38,851件)

【医療従事者の確保・養成】

- 医療従事者の技能向上のための研修機能が強化

全県事業

【医療従事者の確保・養成】

- 将来長野県内で働く医師を確保
- 認定看護師を養成し、看護師の医療技能を向上

人口10万人対医師数の増加
H20: 196.4人 → H24: 211.4人 (+15.0人)

4

3-① 長野県地域医療再生計画(二次分)の概要

目標

救急医療やがん対策を実施する高度・専門医療機関の整備、医療機関の連携強化

総事業費／基金額

251.5億円／86.2億円
(+運用益0.4億円)

計画期間

平成23年度から平成25年度まで(3年間)
(一部は平成27年度まで延長)

主な実施事業

救急医療

- 県下4ブロックへの循環器病センターの整備
- 病院ヘリポートの整備による救急搬送体制の強化
- 病院の統合再編による医療資源の集約化
 - 佐久総合病院の再構築による機能分化・連携
 - 市立岡谷病院と岡谷塩嶺病院の施設集約
 - まつもと医療センターの一体化整備

がん対策

- 高度専門医療機器等の整備によるがん高度専門治療の提供
- ブロック的がん診療連携拠点病院の機能強化
- がん診療連携拠点病院未整備医療圏におけるがん医療機能強化

医療人材の確保対策等

- 信州医師確保総合支援センターの運営
- 看護師養成課程の開設
- がん・救急関係の認定看護師の資格取得の支援

医療機関の連携強化

- 医療機関間での医療情報連携
- 地域連携クリティカルパスの策定の促進



5

3-② 長野県地域医療再生計画(二次分)の成果

救急医療

- 県全体で重症な循環器病患者へ対応できる体制が強化

循環器病センター(5か所)における心臓カテーテル検査数
 H23:3,571件 → H24:5,053件
- 佐久総合病院の機能を分化し、高度な救急医療、専門的ながん医療、ハイリスク分娩等高度な周産期医療を担う佐久医療センターが整備



心臓カテーテル装置



佐久医療センター

がん対策

- 高度ながん医療が受けられるように体制が整備

長野市民病院の放射線治療装置(RALS)による治療件数
 導入前:0件 → 導入後 129件(H25)
- がん診療連携拠点病院のない上小・木曾・大北・北信医療圏でも標準的ながん医療が受けられる体制が整備

北信総合病院がん手術件数
 H22:380件 → H24:478件(+98件)



磁気共鳴断層撮影装置(MRI)

医療人材の確保対策等

- 医療従事者の確保と医療技能が向上

産科医師数の増加 H20:168人 → H24:191人(+23人)
 麻酔科医の増加 H20:117人 → H24:135人(+18人)

医療機関の連携強化

- 医療機関間での医療情報共有により、病理診断専門医による診療支援や、患者情報の共有による安全な医療を提供

信州メディカルネットによるカルテ参照件数
 H23:86件 → H25:780件

6

4-① 長野県地域医療再生計画(三次分)の概要

計画策定の趣旨

これまでの地域医療策定時以降に生じた状況変化に対応するため基金を拡充

計画期間

平成25年度から
平成27年度まで(3年間)

総事業費/基金額

39.8億円/13.5億円

主な実施事業

災害時の医療体制の確保

- 航空搬送拠点臨時医療施設(SCU)の倉庫・機材整備
- 災害拠点病院等のヘリポート、自家発電装置等の整備

在宅医療

- 在宅医療連携拠点の整備
- 在宅医療・介護を担う多職種人材育成
- 訪問診療に必要な車両の整備

医師確保対策・看護人材確保対策

- 医学生修学資金貸与事業
- 信州型総合医の養成
- 岡谷市看護専門学校・信州木曾看護学校教育の環境整備

二次医療圏の地域医療再生

【木曾医療圏】

- 医療圏の課題であるがん・脳卒中(急性期)の診療機能の強化のための医療機器整備
- へき地巡回診療車・訪問診療車の整備



【大北医療圏】

- 医療圏の課題である急性心筋梗塞の診療機能の強化のための医療機器整備
- 信州大学との連携による総合診療を行う医師の養成
- 認定看護師の養成



【北信医療圏】

- 医療圏の課題である脳卒中(急性期)の診療機能の強化のための医療機器整備
- 信州大学との連携による総合診療を行う医師の養成
- 慢性期医療の充実のための療養病床の確保

7

4-② 長野県地域医療再生計画(三次分)の成果

災害時の医療体制の確保

- SCUの機材等の倉庫が整備
- 災害時でも医療継続がなされる体制が強化



災害拠点病院等自家発電設備:12か所整備

自家発電設備

医師確保対策・看護人材確保対策

- 医師の地域偏在の解消に向け前進
- 信州型総合医の仕組みが構築

信州型総合医養成プログラム:
H25 12病院認定、受講研修医12人
H26 19病院認定

- 質の高い看護師を養成する学校が整備

看護専門学校:2校開設

在宅医療

- 地域における包括的・継続的な在宅医療が提供されるための体制を構築

在宅医療連携拠点:5か所整備

在宅医療推進全体会議による
養成者数:250人



在宅医療を提供する診療所の
訪問診療車整備

二次医療圏の地域医療再生

【木曾医療圏】

- がん・脳卒中の診療機能が向上
- へき地医療体制が強化

X線血管造影撮影装置



【大北医療圏】

- 急性心筋梗塞の診療機能が向上

病院の機能分化:
市立大町=脳・心疾患を担当
安曇総合=心疾患を担当

- 信州大学との連携により、総合診療を行う常勤医師を確保

常勤医師:2名確保

【北信医療圏】

- 脳卒中の診療機能が向上
- 信州大学との連携により、総合診療を行う常勤医師を確保
- 北信総合病院において療養病床が確保

常勤医師:2名確保

8